

研究開発課題事後評価結果

事業名（領域名）	次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業（RNA 標的創薬技術開発）
事業年度	令和3年度～令和7年度
公募研究開発課題名	新規 RNA 標的医薬品の研究開発
研究開発課題名	mRNA 構造を標的とした新規免疫制御医薬研究開発
代表機関名・役職名	京都大学・教授
研究開発代表者名	竹内 理

【評価結果】

優れている／計画した成果をやや上回る成果が得られた

【評価コメント】

Regnase-1 を標的とする戦略は、免疫疾患の新しい治療法につながる発想であるが、その有効性を示し、さらにシングルアンチセンス核酸で Regnase-1 の発現増強に成功したことにより、疾患への介入法として十分に期待されるレベルへと進展した。必要知財も確保され、成果の外部発表も多数されており、基礎的な研究面では、想定以上の研究進展が得られている。堅実な研究成果は、医療分野の進展に資するものであり、有効な治療法がない難治性自己免疫疾患などの治療法として幅広い適用の可能性を示すものである。

今後、標的細胞への送達方法の検討やモデル動物における治療効果データの充実などを進めるとともに、実用化に向けて本研究の競争力を維持するために、企業との連携を加速するなどの戦略的で迅速な開発を期待する。